



「日メコン交流年 2009 記念事業」

第 2 回「日本語体験コンテスト in ホーチミン」

【実施日】2009年10月17日(土) 10:00～16:30

【会場】ベトナム・ホーチミン市 Le Thi Hong Gam 職業訓練センター 講堂

予選会	10:00～10:05	開会の辞
	10:05～10:15	注意事項説明
	10:15～	予選（日本語聞き取り問題 30 問）
本選会	12:50～	予選通過者発表(26 名)
	13:00～13:10	開会の辞，審査委員紹介
	13:10～13:15	注意事項説明
	13:15～13:30	スピーチ問題(3 題)
	13:30～15:00	スピーチコンテスト
	15:10～15:30	余興
	16:00～	表彰式 「夢・日本体験賞」発表(5 名)

【後 援】 文部科学省/在ホーチミン日本国総領事館/全日本空輸株式会社(ANA)

【協 賛】 株式会社 共立メンテナンス/株式会社ローソン

【協力団体】 ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学

ドンズー日本語学校

さくら日本語学校

■ 午前の部 予選会



会場に入る前にまずは受付★



会場内看板



予選会 聞き取り問題開始！

■ 午後の部 本選会



予選通過者 26 名の発表
！おめでとう！



来賓の方々



審査委員紹介

左から、村田先生、高山先生、
ディン グエン ゴック チャン先生



審査委員長
江副先生



実行委員紹介
左から、金子典由、
ゲンバンシー、菊川



スピーチコンテスト開始!
シンキングタイム



与えられたテーマに沿って、
3分間の即興日本語スピーチ



各学校の歌や踊りの出し物で
会場は大盛り上がり!



■ 入賞者 5 名決定!! 賞品旅行「夢・日本体験賞」



	氏名	カタカナ	学校名
1	Nguyen Duy	ゲン ユイ	さくら日本語学校
2	Do Viet Cuong	ドオ ヴィット クゥーン	さくら日本語学校
3	Nguyen Thi Thanh Thao	ゲン ティ タン タオ	ドンズー日本語学校
4	Ngo Thi Hoai Anh	ゴー ティ ホアイ アン	ベトナム人文社会科学大学
5	Duong Kim Ngan	ズオン キム ガン	ドンズー日本語学校



前列左より江副審査委員長、古館領事(在ホーチミン日本総領事館)、平岩氏 (VJCC 日本語教育専門家)、菊川実行委員長、Hoe 名誉委員 (ドンズー日本語学校校長)、Danh 名誉委員 (さくら日本語学校校長)、Luc 名誉委員 (人文社会科学大学教授)、村田審査委員

後列左より入賞者 5 名、Si 本部長、ディンゲンゴックチャン審査委員、高山審査委員

<講評>

◆ 審査委員長 江副隆秀（学校法人江副学園 理事長）

第2回日本語体験コンテスト in ホーチミンに参加して

韓国で行ってきた財団の日本語コミュニケーション・コンテストには9年間連続で審査員をさせていただいた。今回、第2回日本語体験コンテスト in ホーチミンに初めて参加させていただき、偶然、二つのコンテストのそれぞれの良さを感じることができた。日本語と韓国語は、基礎語彙は全く異なるものの、どちらも環声調言語の文法構造であることと、多くの近代インフラ系語彙が日本語の借用であるため、彼らは比較的日本語を学習しやすい。



他方、ベトナム語は、声調言語の特徴が色濃く、文法体系は日本語と異なる。ただ、韓国語同様、近代インフラ系語彙に関しては、日本語からの借用語が意外に多い。ベトナム語は声調言語なので、カタカナで正確には表記できないが、無理して書いてみると、福沢諭吉の造語、「個人」が「カニャン」だったり、西周（にしあまね）の造語「哲学」がそのまま、「チェッホック（学はホックに近い）」だったりする。「留学生」が「リュウホックシン」、「注意」は「チュウイ」、「電話」は「ディエントワイ」という具合だ。その意味では、初級できちんと文法が入っていて、語彙の整理がつくと語彙学習は意外と早い。ただ、一見、日本語と全く異なるように見えるベトナム語を母語とする学生達が、積極的にスピーチを行う姿は、微笑ましく、同時に感動的でした。全体的に発音も悪くなく、内容も制限時間を考えると妥当なものだったと思う。ただ、初めの方に話した学生の影響を受けた後続の発表者も多く、個人の性格に左右されるものかどうかはわからないが、創造性に若干欠ける人が少なくないという印象を受けた。ただ、ベトナム特有ということではないが。

いずれにせよ、言語間距離では日本語から遠い言語の学習者達の日本語に対する熱意と積極性に圧倒された大会だった。

いづれにせよ、言語間距離では日本語から遠い言語の学習者達の日本語に対する熱意と積極性に圧倒された大会だった。

参考：『研究史日本語の起源「日本語＝タミル語起源説批判」』安本美典 2009 勉誠出版、『明治生まれの日本語』飛田良文 2002 淡交社、『漢字音』藤井友子 1986 朝日出版、

◆ 審査委員 村田秋良（日新アカデミー日本語学校 教員）

大会前日。ホーチミン入りすると、ものすごい雨。日本のザーザーという降り方とも違い、サッーとすべてを洗い流していくかのようだ。さくらスタッフによると、まだ雨季にあるベトナムでは珍しいことではないらしいが、翌日もこんなスコールになったら参加者は集まるのだろうかと心配してしまった。当日は、雨が降ったりやんだりの天候だったと記憶するが、61名もの参加者があった。残念ながら、時間に遅れて、参加できなかった者もいたようであるが、申込者、参加者とも昨年とほぼ同程度だった。



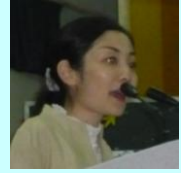
まずは、参加者を絞る予選会。日本の一般常識を問う3択クイズであるが、参加者のみならず現地の日本人スタッフからも難しいとの声も聞かれた。しかし、実施後、「予選問題が1問当たりましたよ！」とさくら日本語学校の金子先生。予想問題を立てて、学生に解かせていたとか。今回の入賞者5人のうちの1人は、そのズバリ的中した予想問題のおかげでギリギリ予選会を通過したというから、まさに準備が実ったわけだ。

そして、本選スピーチ。昨年に続き、審査員として二度参加させていただいた私から見て、スピーチのレベルが上がったことは明らかに見て取れた。昨年は、時間が全然足りないもの、あるいは、時間をオーバーするものなども散見されたが、今年は全員が時間内におさめ、短すぎるというものもほぼなかった。何よりも印象的だったのは、去年よりもやる気、意気込みが伝わってきたことだ。厳しい条件の中で、発表者は精一杯頑張ったが、審査員席から見ていて感じたことを私なりに記したい。演壇に上がり、あれだけ大勢の前で、外国語で発表するという事は相当の緊張状態になると思われる。恐らく、頭が真っ白になってしまった人も多いのではないだろうか。そこで重要になってくるのがメモだ。では、準備段階でどうメモをしたらいいか。まず、スピーチ内容の大きな柱となる部分をいくつか考えて、それを記していき、次に、話すスピーチ内容を思い出せるキーワードをその横に書いておく、といった方法もあるだろう。各人各様の方法もあると思うが、今回、もし話すつもりなのに話せなかった、忘れてしまったという人がいたら、参考にしていただけたらと思う。

昨年よりもレベルアップが感じられた「第2回 日本語体験コンテスト in ホーチミン」。来年はさらに素晴らしい大会になることだろう。最後に、開催にあたり、さくら日本語学校のスタッフをはじめとする、御協力いただいた方々に心より感謝の気持ちを深く申し上げたい。

◆ 審査委員 高山怜子（日新アカデミー日本語学校 教員）

今回、初めて本コンテストの審査委員を務めさせていただきました。予選会・本選会、共にかなり難しい課題でしたが、どの参加者も、学習歴の差こそあれ、自分の持っている力でよく健闘していたと思います。スピーチについて感じたことですが、聞き手がいることを意識すると、もっと良くなると思います。まず、テーマを選ぶ段階でも、聞き手が「おもしろい」と興味を持って聞いてくれそうかどうかを考えてみてください。それから、話すときは、聞いている人に本当に紹介したいものを、「ぜひ知ってもらいたい！」という気持ちで一生懸命 PR することが大切です。原稿を書いて覚える必要はありません。心に思っていないことや難しい文を暗記して、その通りに話そうとすると、きっと忘れてしまいます。心から紹介したいものなら忘れないはずです。自分の意見を自分の言葉で話せばいいのです。ただ、そのためには、日頃からいろいろなことに興味を持ち、それについて自分の意見を持つことが大切です。これはスピーチのためだけではなく、人生においても大切なことです。また、無理に難しい文型や言葉を使う必要ありません。聞いている人がわかりやすいように話すのが、上手なスピーチです。目線や声の調子にも気をつけると良いでしょう。



今回の審査にあたっては、多少文法の間違いがあっても、相手に訴えかけようとする意志を評価しましたが、きちんと伝えるためには、正しい日本語を話すことも大切です。どのレベルの人も、さらに上を目指してこれからも日本語の学習を続けてほしいと思います。最後になりますが、ベトナムの日本語学習者や日本語教育に携わる先生方との出会いは貴重な体験になりました。このような機会を与えてくださったことに、心より感謝申し上げます。

◆ 審査委員 ディンゲンゴックチャン

（ホーチミン市元日本留学生協会-Juach）

ベトナム、ホーチミン市元日本留学生協会（Juach）の Dinh Nguyen Ngoc Tran と申します。今年も第2回日本語体験コンテスト In ホーチミンの審査員としてご協力させていただき、とても光栄だと思っております。今年の第2回日本語体験コンテスト In ホーチミンの印象については去年の第1回日本語体験コンテスト In ホーチミンと比べて、まず第一印象は去年に負けずに、たくさんの応募者が参加していたことです。これは去年の第一回日本語体験コンテストの好評、並びに主催者及びその他関係者の熱心な準備のお陰だと思われます。また、当コンテストの本選会については去年の方法と同じように3分間以内に与えられた3つのテーマから選んだテーマについてメモを見ずにスピーチを行うこととなっていますが、下記のようにいくつかの印象がありました。



- ・スピーチ制限時間の厳しさ：制限時間超過の場合は0点、2分30秒より早く終わった場合は1点、2分30秒以上3分間以内に終わった場合は5点という厳しい採点方法は導入されましたことにより、せっかくいいスピーチができたのに、この時間制限を守らなくて失点した参加者もいました。

- ・参加者の発音：多少ベトナム人固有の発音ミスがまだ残っていますが、ほとんどの参加者の発音はよくできたと思います。これはスピーチ参加者の日本語学習の平均期間は2年間以上であることから考えられます。

- ・文法の正確さ：与えられたテーマははっきりしているお陰で参加者の日本語が正確ではなくても大体わかりましたが、文法、特に助詞の使い方を正確に使っていた参加者はまだ多くないことです。

- ・スピーチ内容：上記のように今回与えられたテーマははっきりしているため、参加者の言いたいことが大体わかりましたが、残念ながら説得力がある話はまだ少なかったと思います。